

科目名	文学の世界			ナンバリング	GEN123	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	帆苅基生	担当教員					

授業の概要	大学で文学作品を読むということは、高校までのような与えられた枠組みの中で一つの正解に辿り着く、受身の姿勢で読むことではありません。自ら読むための枠組みを作って能動的な読者として文学作品の読みに参加することが必要です。例えば、芥川賞作家の小野正嗣は「文学を学ぶことには何も意味がないと断言するのは、人間として生きることには何の意味もないと認めることに等しい。」と言っています。ここから、文学を学ぶということが、究極的には人間としていかに生きるべきかを学ぶことであることがわかるでしょう。もちろんこの授業の中でその答えを見つけることは不可能ですが、その答えに限りなく近づけるために、本科目は受講者自らが主体的な読みを確立していくために、具体例として日本近現代文学におけるいくつかの作品を取り上げ、それらを人文学の領域で扱われるさまざまな知識を用いて枠組みを作り、その枠組みを通して読むことを目指していきます。						
到達目標	1. それぞれの文学作品を読むための枠組みを受講者が主体的に選択し、その枠組みを用いて文学作品を読むことができる。 2. 文学作品を読んで現実逃避をするのではなく、現実と向き合い、自らの「いかに生きるべきか」というテーマを意識しながら文学作品を読むことができる。 3. 文学だけでなくさまざまな「常識」に対する見方・考え方に変化をもたらすことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文学の授業を履修する際に重要なのは、扱う作品を必ず読んでくるということです。そして、自分はこの作品をどう読んだかをはっきりと示しておくことが必要です。授業を受けて自分の読み方に一層自身を持てるようになるか、あるいは、予想外の読み方が提示され、自分の読み方を改めることになるかはわかりませんが、授業は毎回「自分の読み」が前提となって進んでいきます。したがって、読まずに授業に参加するということは、その授業を欠席しているに等しいと認識してください。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
		4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. それぞれの文学作品を読むための枠組みを受講者が主体的に選択し、その枠組みを用いて文学作品を読むことができる。 2. 文学作品を読んで現実逃避をするのではなく、現実と向き合い、自らの「いかに生きるべきか」というテーマを意識しながら文学作品を読むことができる。 3. 文学だけでなくさまざまな「常識」に対する見方・考え方に変化をもたらすことができる。	1. それぞれの文学作品を読むための枠組みを受講者が主体的に選択し、その枠組みを用いて文学作品をさらに深めて読むことができる。 2. 文学作品を読んで現実逃避をするのではなく、現実と向き合い、自らの「いかに生きるべきか」というテーマを強く意識しながら文学作品を読むことができる。 3. 文学だけでなくさまざまな「常識」に対する見方・考え方に大きな変化をもたらすことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート		○	○				30%
宿題・授業外レポート	○	○	○				60%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			10%

課題、評価のフィードバック	提出された小レポートのうち、教室全体で共有しうる読み方や枠組み着眼点が明確に示されたものをプリントで配付し、解説を行う。また、授業中に求める感想や意見、レビューシート等も評価の対象に含む。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	文学の学びとは何かについての概説 (講義の進め方、参考文献の紹介含む)	
	第2回	高校国語の読み方と新しい視点での読み方	〈語り・物語・歴史〉という枠組みで「羅生門」を読む	
	第3回	理想郷・国家を作る小説①	〈ユートピア〉を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第4回	理想郷・国家を作る小説②	〈こどもの国〉を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第5回	理想郷・国家を作る小説③	〈独立国家〉を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第6回	異界を描く小説①	〈境界〉を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第7回	異界を描く小説②	〈日常〉と〈非日常〉を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第8回	異界を描く小説③	〈別世界〉としての異界を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第9回	恋愛と社会①	〈恋愛〉と社会の関係を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第10回	恋愛の社会②	〈ジェンダー〉から恋愛を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第11回	恋愛の社会③	〈友情〉を描いた小説の特質とその物語の背景を学ぶ	
	第12回	ミステリーと社会①	現実起きた〈事件〉を描いた小説の特質その物語の背景を学ぶ	
	第13回	ミステリーと社会②	社会派ミステリー小説と中間小説と言う概念を学びその特質と背景を学ぶ	
	第14回	ミステリーと社会③	現代小説における〈ミステリー〉がどのように描かれているか学びその特質と背景を学ぶ	
	第15回	まとめ	これまでの講義内容を踏まえ、「文学」をテーマとした最終レポートを作成する	
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方		基本的に講義形式とするが、受講者に適宜感想や意見を求めていく。		
授業外学習の指示		次回読む小説は事前に必ず目を通しておくこと。授業後は講義をふまえ、配付された資料を熟読し、小説本文を再読し、小レポート作成の準備をしておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	テキストはプリントを配付する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
参考URLなど	授業中に適宜紹介する。
その他	この講義の目標は受講者が文学を通して主体的に知的探求を行うことである。毎回の授業中にレビューシートを書いてもらい、また適宜小課題として授業中に扱うテキスト等の感想文などを提出してもらう。